

現職英語教員の授業力に関する意識調査

共同企画・調査（2012 年 5～6 月）
大学英語教育学会 教育問題研究会
早稲田大学 神保尚武科研(基盤(B))
京都大学 西山教行科研(基盤(A))

本調査は、英語教師の成長のための「授業力のめやす」を策定することを目的として行われるものです。この質問紙は 3 部で構成されています。第 1 部は回答者の「基礎データ」、第 2 部は「授業力のめやす」に関する項目、第 3 部は「異文化能力の育成や自律を促す取り組みに対する意識」に関する項目です。質問項目が多岐にわたり恐縮ですが、各部の指示に従い、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

基礎データ

- 1. 1～3.については、当てはまる項目を1つだけ☑してください。
- 4.については勤務校の都道府県名をお書きください。
- 5.については「ある」を選んだ場合のみ指示に従ってお答えください。

1. 勤務校の種類

☐中学校 ☐高等学校 ☐中・高一貫校 ☐小・中一貫校

2. 勤務校の設立形態

☐公立 ☐国立 ☐私立

3. 教職としての勤務年数

☐5 年未満 ☐5～10 年目 ☐11～15 年目 ☐16～20 年目
☐21～25 年目 ☐26～30 年目 ☐31～35 年目 ☐36 年目以上

4. 現在の勤務校の所在地

都道府県名を右の下線部にお書きください。 _____

5. 海外研修・留学などの経験（☐ある ☐ない）

- 「ある」を選んだ場合には、下の(1)～(3)のうち当てはまる項目を1つだけ☑してください。
- (1)あるいは(2)に☑した場合はそれぞれ下位項目のうち1つを選んで☑してください。
- (3)の「その他の海外生活経験など」を選んだ場合はその内容を簡潔にお書きください。
☐ (1) 海外研修 (期間: ☐ 1 か月以上 3 か月未満, ☐ 3 か月以上 6 か月未満, ☐ 6 か月以上 1 年未満)
☐ (2) 海外留学 (形態: ☐ 学部留学, ☐ 大学院留学 (1 年程度), ☐ 大学院留学 (学位取得))
☐ (3) その他の海外生活経験など ()

英語教師の成長のための「授業力のめやす」に関する調査

次の記述文リストは、現職の英語教師が自分の授業実践を振り返り、自己評価するための指標として試作されたものです。これらの項目は、自己評価とともに同僚などとの協働による診断的評価、あるいは、形成的評価として、教職のキャリア全体を通して利用されることが期待されています。この趣旨をご理解の上、各記述文が現職英語教員の到達すべき「授業力のめやす」として妥当かどうかに関して、以下の段階であてはまる数字に○を付けてください。

5	4	3	2	1
妥当である	ある程度妥当である	どちらともいえない	あまり妥当ではない	妥当ではない

参考までに、本リストの姉妹版である「言語教育履修生（初任者も含む）のためのポートフォリオ」, 2009 年大学英語教育学会教育問題研究会開発）に含まれているリストを同封しました。回答の際の判断材料にご利用ください。

【記述文リスト】

1. 学習指導要領に従って、英語科教育課程や年間指導計画をたてることができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

2. 教育委員会、各学校の教育評価を行う委員会、保護者などの期待と影響を考慮し、その適切性を判断できる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

3. 学習者の教育に関する問題や自身の教授法について、自らの実践を振り返り(ながら)、授業改善ができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

4. 学力差に配慮して、学習者が意欲的に参加できるスピーキング活動を設定することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

5. 場面により(電話での応答、交渉、スピーチ、など)言語表現が異なることに学習者が気づき、適切な表現を使用できるようなスピーキング活動を設定することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

6. 学習者が対話に参加したり、自分から対話を始めたり、適切に応答したりする活動を設定することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

7. 対話の際に必要なコミュニケーションストラテジー（理解度の確認の質問、言い換え、簡単な表現、など）を学習者が使えるように支援できる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

8. 文章の種類（手紙、物語、レポート、など）によって表現が異なることに学習者が気づき、適切な表現を使用できるようなライティング活動を設定することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

9. ライティング活動を促進させる様々な教材（オーセンティックな教材、視覚教材、など）を用いることができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

10. 学習者が自分自身で書いた文章を検討し、改善することができるように支援できる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

11. ライティング活動をスムーズに行うために、学習者同士の相互評価を用いることができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

12. リーディングやリスニング活動において、学習者が新出単語もしくは難語に対処できるストラテジーを使えるように支援できる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

13. リスニングと他のスキルの懸け橋となる様々なポスト・リスニング活動を設定することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

14. 学習者がクリティカルに読むスキル（気づき、解釈、分析、など）を身につけるよう支援できる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

15. 文法事項を様々な方法（教師が例を提示する、学習者自身に文法構造を気づかせる、など）で導入したり学習者に使用させたりすることができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

16. 新出単語を音声・文字表現の中で使用できるようになるための活動を設定することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

17. 立場や場面にふさわしい言語使用能力を学習者が伸ばすことに役立つ活動（ロールプレイ、場面設定での活動、など）を設定することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

18. 学習者の能力や興味に応じて、適切な ICT を使った教材を選び、活用できる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

19. 教科横断的な内容,あるいは他教科の内容を英語で教えることができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

20. 個人活動からペア・グループ活動, ペア・グループ活動からクラス全体など, 状況に応じて学習の形態をスムーズに変更することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

21. 既習あるいは未習を問わず, 学習者の習熟度やニーズに応じて, 言語材料や話題を提供することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

22. 学習者のニーズや活動の種類などに応じた様々な役割を果たすことができる。(例: 情報提供者, 調整役, 指導者, など)

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

23. 英語の教科内容や勉強の方法などを, 英語を使って指導することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

24. 教室で使用されている英語の理解が困難な学習者に対して, 適切な方法で指導することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

25. 学習者の日本語能力を必要に応じて学習内容に関連づけ, 活用できるように支援することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

26. プレゼンテーションソフトを用いて学習者が英語で発表ができるように支援することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

27. 学習効果を高めるような特別活動の必要性を認識し, 状況に応じてそれらの活動を設定することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

28. 関係者と協力し国際交流推進の手助けができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

29. 学習や学習の伸び具合を評価する方法を, 学習者と話し合うことができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

30. 個人学習と協働学習に関する学習者の能力をそれぞれ個別に評価することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

31. 評価の経過と結果を自分の授業に活用し、個人およびグループのための学習計画を立てることができる。(例えば形成的評価など)

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

注: 形成的評価とは指導の途中で、それまでの内容を学習者がどの程度理解しているか把握し、その後の学習に役立てるために評価することである。

32. 妥当性のある評価尺度を使って、学習者の学習成果を評価することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

33. 信頼性があり透明性がある方法で、試験の成績評価ができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

34. 学習者が自分の目標を立て、自分の学習活動を評価できるように支援することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

35. 学習者がクラスメイトと互いに評価しあうことができるように手助けすることができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

36. 情報の種類にかかわらず、言外の意味を含む話し言葉を理解する学習者の能力を評価することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

37. 情報の種類にかかわらず、言外の意味を含む書き言葉を理解する学習者の能力を評価することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

38. 内容、使用の適切さ、正確さ、流暢さ、さらに会話を円滑に進めるための戦略などの観点に従って、学習者の会話能力を評価することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

39. 内容、使用の適切さ、正確さ、さらに対応の適切さなどの観点に従って、学習者の書き言葉によるコミュニケーション能力を評価することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

40. 異文化に関する学習者の知識や態度を評価することができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

41. 学習者の誤りに対して、授業の流れやコミュニケーション活動の妨げにならないような対処をすることができる。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

異文化能力の育成と自律を促す取り組みについての意識調査

異文化と自律をキーワードに、主に言語能力以外の言語教育の授業力に関わる内容についてお尋ねします。ここで扱う項目は、第2部の記述文と多少重なると思われる項目がありますが、日本では今のところほとんど実践されていないと考えられるものです。しかし、今回の調査で全国的な取り組みの可能性を検討し、今後の言語教育の方向を提言するための源泉といたしますので、是非ともご協力ください。ご回答は以下の段階であてはまる数字に○を付けてください。

なお、ご回答の際、各項目の内容について指導のご経験がない場合でも、指導を想定してその可能性をお答えください。

5	4	3	2	1
できる	ある程度 できる	どちらとも いえない	あまりよく できない	できない

1. 異文化能力の育成に関する事項

- 1) 外国人留学生、移民の子弟、帰国生など文化背景や学習経験の異なる学習者によって構成されたクラスで教える場合、クラスの多様性の価値を理解し、それを活用すること。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

- 2) 生徒に社会文化的な「行動の規範」の類似性と相違性を気づかせる様々な種類の文章、教材、あるいは活動を選ぶこと。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

- 3) 文化、価値観、考え方などが異なる他者を生徒に理解させるために役立つ、様々な種類の文章、教材、そして活動を設定すること。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

- 4) 生徒が自分のステレオタイプの文化観、価値観、考え方に気づき、それを見直すことができるような多様な種類の文章、教材、活動を選ぶこと。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

- 5) 授業外でインターネットや電子メールなどを用いて、英語が使用されている地域、人々、文化などについての調べ学習を支援すること。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

- 6) 学習者に異文化への気づきを促す様々な種類の文章、教材、活動を選ぶこと。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

- 7) 修学旅行、国際交流・国際協力活動の学習結果を評価すること。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

- 8) 異文化に接した時に、適切に対応し行動できる生徒の能力を評価すること。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

2. 自律を促す取り組みに関する事項

- 1) 教材,授業内容,授業の進め方などに関して,生徒と相談の上,彼らの意見も取り入れた計画を作成し,それを授業で実践すること。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

- 2) 生徒に対して,自分自身や他の生徒のために自主教材を作成するよう指導し,それを使って授業を実践すること。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

- 3) 生徒が自分の知識や能力を振り返るために役立つような様々な活動を設定すること。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

- 4) 生徒が自分の学習過程や学習スタイルを振り返り,学習ストラテジーや学習スキルを向上させるのに役立つような様々な活動を設定すること。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

- 5) 生徒の意見を取り入れて,宿題の内容,種類,量などを決めること。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

- 6) ねらいや目的に応じてプロジェクト型学習を計画し実施すること。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

注:プロジェクト型学習とは学習者が通常グループ単位で,実社会と関係のあるテーマに主体的に取り組み,成果を発表や作品などの形で確認する活動である。学習者の思考力,協働作業力,判断力など幅広い認知力育成がねらいとされる。

- 7) プロジェクト型学習の様々な段階で,生徒を適切に支援すること。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

- 8) 生徒と協力してプロジェクト型学習の過程と結果を評価すること。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

- 9) 生徒にポートフォリオを作成させるための具体的な目標や目的を設定すること。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

注:ポートフォリオとは学習者が自らの学習の振り返りを行い,学習過程を認識し,フィードバックを得るなど学習に役立てるために,提出物や学習成果を集め,記録したものである。

- 10) 生徒にポートフォリオを作成させるための指導計画を立てること。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

11) 生徒にポートフォリオを適切に使えるように指導し,建設的なフィードバックを与えること。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

12) ポートフォリオに関して生徒が自己評価をしたり,クラスメイトと互いに評価しあう活動を奨励すること。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

13) ウェブ上で,ディスカッションフォーラムやホームページなど様々な学習活動の場を設定して,生徒に活用させること。

5	4	3	2	1
---	---	---	---	---

ご協力ありがとうございました。